

41年の研究生生活に感慨

弘前大学 倉坪教授が最終講義

41年間の研究生生活を振り返り、最終講義を行った倉坪教授



最終講義
十一時五分～十二時五分 小西 榮一
「私の研究と情報科学との係り」

今年度にて定年退職を身。1968年に金沢大を卒業。70年に東北大学大学院理学研究科数学専攻修士課程を修了し、弘大に勤務。94年に弘大理学部教授に就任した。倉坪教授は岐阜県出身。最終講義のテーマは「多変数フーリエ級数の収束問題と格闘した41年間」。自らの生い立ちや弘大での思い出を語るとともに、数学

や物理学、工学に広く応用されるフーリエ級数について、倉坪教授の研究内容を交えて解した。倉坪教授は「41年間の長きにわたって弘大に勤務させていただいた。送り出した卒業生は1300人」と述べ、「私自身、授業を楽しくでき、授業を楽しんできた」と感謝していた。

同日は、同研究科数理科学科の二ツ矢昌夫准教授、同研究科電子情報工学科の小西榮一准教授もそれぞれ最終講義を行った。

※この記事は、陸奥新報社提供です。
無断転載はできません。
[問い合わせ先] 弘前大学理学部
hcp@st.hirosaki-u.ac.jp